

あうん

2年生が見学旅行で見てきた奈良東大寺南大門の金剛力士像。「どうしてあんなに凄い仏像が彫れるのか」と問われた鎌倉時代の仏師・運慶は「もともと木の中に埋まっておられた仏様を彫りだしてさしあげただけだ」と答えたという。芸術の本質を言い当てたような言葉だと思う。

南大門の左右一對の仁王（金剛力士）、片方は口を「あ」の形に開き、もう一方は「ん」の形に結んでいる。サンスクリット語の最初の字音である「阿」と最後の字音である「吽」によって、万物の始まりと終わりを表現しているとされている。「阿」と「吽」の仁王像の姿から転じて、「何かを一緒に行うときにぴったりと息が合うこと」を「阿吽の呼吸」と言うようになった。

さて、ダブルス。「阿吽の呼吸」のできているペアは強い。

相手の打ったロブがふらふらと浅いところに上がって、それを前衛がハイボレーで処理しようとしているときに、後衛は「ガンバ！」と叫ぶ。しかし、それは前衛を「頑張れ」と励ましているわけではないのだ。「そのボールは（前衛の）お前が責任を持って処理しろ！オレ（後衛）はそれを追いかけずに、次のプレーに備えて動くぞ」という意味である。逆に「ハイ！」と叫んだら、「ダメだ、その体勢で（前衛の）お前が手を出したら絶対ミスするから、早くラケットを引っ込めろ！オレはお前よりずっといいポジションにいるから、任せろ！」という意味である。

相手の打ったロブがふらふらと浅いところに上がって、それを前衛がハイボレーで処理しようとしているときに前衛が叫ぶ「ハイ！」は、「大丈夫！このボールは（前衛の）オレが処理するから信じてくれ。だから（後衛の）お前はこのボールは追いかけずに早く次のプレーに備えろ！」の意味。逆に、「頼む！」とか「お願い！」は、「ごめん！このボールは（前衛の）オレが処理すべきかもしれないけど、ちょっと無理みたいだ。（後衛の）お前に任せろ、頼むっ！」の意味である。

これらの SHOUT は、一瞬遅れただけで、言わなかったのと同じ結果を招いてしまう。だから、一瞬の間に、迷わず決断して叫ばなくちゃならない。0.01秒を争うのだ。だって、緊急事態なのだから。今、コートの上では危機管理体制 risk management を問われる一大事が起こっているのだから。

そもそも、いつも声を出して大騒ぎしてくれる後衛と組めば、前衛の選手は味方の後衛が、今どこにいるのか常に確認できる。一方、黙って動いたり動かなかったりするヤツと組むのがいちばん煩わしく鬱陶しく頼りなく厄介なのだ。敵に背中を見せてふり返り、後衛の動きを確認しようかという気にさえなる。

どんな備えが必要だろうか？それは、ペアとの間に「阿吽の呼吸」をつくること。声によって、自分の意志を、素早く伝え合えるようにしておくことである。